



熊本県乳牛改良同志会

会長

西本道靖

皆様におかれましては、良き新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、平素より同志会活動に対しまして、ご支援・ご協力をいただき心より感謝申し上げます。

昨年も一昨年同様、新型コロナウイルス感染症の影響は大きかったものの、ワクチンの普及等により、これまで通りの暮らしに戻りつつあります。

また、酪農業界においては、飼料価格・資材価格・燃料価格等の高騰に加え、仔牛の市場価格下落により厳しい経営状況が続いております。

そのような中、本同志会としては6月に第2回熊本県ホルスタインショウを開催し、また、11月に牛乳消費推進活動を開催しました。

第2回熊本県ホルスタインショウについては、昨年3月に開催予定でした熊本県B&Wショウが新型コロナウイルス感染症拡大で中止となり、例年同時期に開催していましたベビーショウを変更し本ショウを行い

ました。開催については、参加者や関係者の皆様には、ご不便な点・配慮が至らなかった点があったと存じます。しかし、本同志会の大きな目的の1つである、同志との研鑽・交流の場を久々に持てたことは大きな実績であり、本県酪農の未来につながるものだと確信しています。また、今年は、3月にオール九州B&Wショウ、更に、4月に全日本B&Wショウも開催予定とされていますので、今回の経験を基に、より良いショウが開催できるよう準備を進めてまいりたいと思います。

牛乳消費推進活動につきましては、一昨年と同じく牛乳の消費拡大を目的に、熊本市の下通アーケードでらくのうマザーズのLL製品約1,000本の無料配布を行いながら、消費者と酪農家の交流に加え、酪農業界の現状を訴えながら活動をしたことにより、消費者への理解醸成にもつながったと考えています。

前述したとおり、酪農業界は厳しい状況が続いております。そのような状況だからこそ、自身の飼養管理改良の方向を見つめなおし、牛群検定並びにゲノミック評価値を活用し生産形質・健康形質・体型形質の改良を行い、生産基盤強化の先導的役割を担っていきたいと思っています。

最後になりましたが、本年も昨年同様、関係各機関の皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



熊本県酪農部長連絡協議会

会長

伊豆永芳弘

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。皆様におかれましては、よき新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、平素より当協議会の活動に対しましてご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。昨年の役員改選により新会長を拝命いたしました。微力ではありますが、部長会の活動の充実に努めますので皆様のご協力をお願いいたします。

昨年は、年明け早々オミクロン株による新型コロナウイルス感染症が急激に拡大し、まん延防止等重点措置が適用される等、新型コロナウイルスに振り回された1年でした。さらに、ロシアによるウクライナ侵攻が始まり、食料やエネルギーなどの安定供給が脅かされ、円安の進行による物価上昇に伴い、経済情勢が大きな不安に陥りました。

酪農・乳業を取り巻く情勢におきまして、長引くコロナ禍の影響により牛乳乳製品需要は引き続き減少し、需給緩和傾向が長期化しています。世界的な穀物需要の増加やエネルギー価格の上昇に加え、ウクライナ情勢の悪化によって、輸入粗飼料等の価格が急騰し

ており、酪農経営の状況が悪化しています。脱脂粉乳・バターの過剰在庫は継続しており今後の生乳増産体制への影響が懸念されますし、更に、飼料や燃料といった生産資材価格の高騰やスレ子価格等の急落により、先行きが見通せず酪農現場へ深刻な影響を与えています。

本協議会としましては、例年、熊本の酪農経営の充実を目標に様々な活動を展開しており、昨年も新型コロナウイルス感染症の影響を受けましたが、感染拡大が落ち着いた6月、当初1月に予定していた視察研修を北海道にて実施し、搾乳ロボット導入牛舎とTMRセンターを訪問いたしました。また、9月に全国酪農業協同組合連合会の組織整備推進アドバイザーである影山氏を講師に迎え、組織整備について専門農協協議会と合同研修会を開催しました。さらに12月には、九州生乳販売農業協同組合連合会の稗島常務と有村部長を講師に迎え、処理不可能乳の発生が懸念される状況等、生乳需給をめぐる情勢についてご教授いただき見識を広めることができました。

今後も本協議会では、酪農業の恒久的発展と酪農経営の安定を図るため、酪農生産者の一層の団結を目指します。今年も新型コロナウイルス感染症の感染予防を徹底しながら、らくのうマザーズ及び各協力組織と連携し、酪農・乳業に係る情報収集や課題解決に向け邁進してまいりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、今後も変わらぬご理解ご協力を賜りますとともに、本年が皆様方にとりまして幸多き一年となりますよう祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。



熊本県酪農ヘルパー利用組合

組合長

生 山 力

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
酪農家の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、本利用組合の事業に対しまして、格別なご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

酪農情勢は、長期化するロシアのウクライナ侵攻や為替の円安傾向の影響から、飼料穀物、肥料、生産資材と燃料価格が高騰するなど嘗てない生産コスト上昇によって、酪農経営は非常に厳しい状況となっています。

このような状況を踏まえ、国・県による価格高騰対策に対する生産者の負担軽減に向けた積極的な支援対策を十分に活かしながら、前向き姿勢で酪農経営に取り組む一方で、バターや脱脂粉乳の在庫が過剰となったことにより、より一層の消費者への理解醸成活動や生産者への生乳生産抑制への協力をお願い等酪農経営にとって予断を辞さない状況となっています。

このような中、当利用組合は、組合員の皆様方のご理解、ご支援により、地域に密着した事業として質の高い酪農ヘルパーの育成・指導に自助し、酪農家の周

年拘束労働を改善し、定休日を設け魅力ある酪農経営の確立を目指すため、定期的な休日の確保、傷病時発生時に速やかに対応することで、酪農経営の一助になることを認識し役職員一同努力しているところです。

現在、本利用組合の人員につきましては、本年度2名採用し現在24名で運営しており、厳しい雇用情勢の中、県内外で開催される募集イベントへ参加し、“デーリィサポート熊本”という応募者にとってイメージしやすい愛称とノベルティを作成することでより来席頂けるように取組んでいます。また、インターンシップを実施し県内外から3名の方を受入れ、酪農ヘルパーに対する認知度向上に努めました。

更に、(一社)酪農ヘルパー全国協会の事業を活用して、中堅酪農ヘルパー職員を対象とした指導力向上研修に参加し、指導力やコミュニケーション力の底上げにより、新人ヘルパーの定着化を促進するとともに職場全体の活性化することを目的に2名の職員を派遣するなどの取り組みを図る予定です。

現状、当組合に対する申込需要は年々増加傾向にありますが酪農ヘルパー要員が不足していることで、お断りせざるを得ないことも多くあり、大変なご迷惑をお掛けしておりますことを心苦しく思う次第です。また、皆様方の近隣に酪農ヘルパーに興味のある方をぜひ、当組合役員までご紹介頂けると幸いです。

今後も酪農ヘルパー事業の充実を図り、皆様の負託に応えていけるよう努めて参りますので、ご理解の程よろしく申し上げます。

最後に、本年が皆様にとりまして健康第一とした稔り多き年でありますように、ご祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



熊本県酪農専門農協協議会

会長

山 田 政 晴

初春に謹んでお慶びを申し上げます。会員皆様におかれましては、心新たに新年の寿ぎをお迎えのことと拝察致します。

昨今の新型コロナウイルス世界的感染やロシアのウクライナ侵攻、北朝鮮ミサイル発射威嚇等世情不安の高まりに、コロナ第八波の影響も絡み、GDPマイナス成長など経済復興への期待も萎む一年でした。

酪農乳業界においては需給緩和の進行、飲用・業務用不振に処理不可能乳発生への懸念、また乳製品在庫増しに堅調な北海道産の更なる抑制拡大など、根深い切迫感を幾度となく感じ続けた年でした。

そのうえウクライナ情勢悪化や急激な円安進行、また物価高騰や燃動費上昇、とりわけ飼料費暴騰に廃用・ヌレ子価格の暴落など、非常に厳しい経営環境、未曾有の酪農窮状にさらされた年へと相成りました。

これらの環境から期中の乳価改訂が実現、乳製品価格上昇に、尚一層の消費不振・販売減退への対策をと消費増大への強力な推進が求められています。

コロナ禍や環境悪化の今、酪農離脱を回避する着実な対策実現は必須です。そのためコスト縮小・費用補填への生処販、官民あげた対策に、現場は飼料費低減への営農見直しにあわせて、局面打開を図る経営計画の修正策定をと思料するところです。

こうしたなか、当協議会は専門農協一本化に向けた、具体的検討を開始しました。組織の再編強化も喫緊に必要な重要な課題であるからです。その対策に群馬県酪農組織の視察を計画し、全酪連組織整備推進アドバイザーの影山氏を招聘した酪農部長会合同研修も実施しました。

更には同常勤監事関和氏による役員の責任役割等座学講習を実施し、活発な意見交換のなかに盛会裡に終了することができています。本年もウイズコロナでの需要回復や経営基盤の安定化を期して、その進展に努めていく所存です。あわせてコロナ禍で痛感する生乳生産の維持や経営安定化の大変さに加え、その対策に奮闘する酪農エネルギーを最大限の成果へと変換できるよう活動をすすめます。

そしてまた、酪農家が一堂に会し、その危機を一体で乗り越えていく、その連帯感をもって、会員皆様との活動を活性化していきたいと考える次第です。

わたしどもの活動が酪農経営の一助となり酪農業全体の活力維持に、さらには酪農家皆様にとって、本年がより良き年となりますよう御祈念を申し上げ、私の新年のご挨拶と致します。



熊本県乳用牛群検定組合

組合長

内ヶ島 賢 勇

新年明けましておめでとうございます。

組合員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃より、組合員の皆様及び関係各位におかれましては当組合の事業に対しまして、格段の御支援御指導並びに御協力を賜り心より深く感謝申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、供給制約の緩和と経済活動正常化により、内需を中心に持ち直し傾向にあります。新型コロナウイルス感染症第8波が拡大するなど、その終息は未だ見通せない状況です。

酪農を取り巻く環境は、昨年11月に飲用向けの値上げが行われ、国などから新たな支援策も出てきているものの、資材費や飼料費などの高騰が止まらず、酪農経営への影響は未だ厳しい状況です。

そのような中、当組合では、国・県・(一社)家畜改良事業団、熊本県酪連、各会員組合のご協力を得ながら毎月の立会検定を中心に、乳牛の改良や酪農経営の改善などに取り組んでおります。県内でも7割の方

が牛群検定に加入されており、検定農家と非検定農家の乳量データでは1頭当たり年間約2,000kgの差があることから、牛群検定の優位性は顕著に見られます。非検定農家の方は、検定料金が6カ月間無料になるお試し検定を活用した検定加入をぜひご検討ください。なお、通常検定は夕・朝の2回立会が必要ですが、毎月夕・朝交互に1回のみ立会で済むAT検定法もあり、今年度もATタイマー設置費用に対する30,000円助成を実施しております。

さらに、牛群検定の新たな指標として「脂肪酸組成」という項目が追加されました。デノボ脂肪酸、プレフォーム脂肪酸、ミックス脂肪酸の3通りの基準があり、主に粗飼料から作られる乳脂肪はデノボ脂肪酸と呼ばれ、乳腺細胞で生合成されて乳脂肪となっています。濃厚飼料や体脂肪が由来の乳脂肪はプレフォーム脂肪酸と呼ばれ、乳腺細胞で生合成できません。ミックス脂肪酸は、その両方の性質を兼ねています。このことから、デノボ脂肪酸は主に粗飼料の利用性、プレフォーム脂肪酸は濃厚飼料の利用性や牛の過肥削瘦などを確認できるため、更なる飼養管理に役立てられますので、ぜひ活用されてください。

最後になりますが、牛群検定を通じて得られる各種データが酪農家の経営改善、生活の安定につながるよう今後とも関係団体の御指導を受けながら事業を進めてまいります。

年頭にあたり、酪農家・検定組合員並びに関係者の皆様にとって幸多き年となりますよう祈念し、新年の挨拶といたします。

